(1) 日本人早期英語学習者の音韻処理、(2) 日本人のロジック、(3) 幸福とコミュニケーション

研究内容

(1) 2020年、小学校の5、6年生で英語が教科として必修化された。英語は、グローバル社会で共生するための必要なツールの一つである。しかし、中学に進んで英語が読めず、円滑な英語力の熟達化ができないという問題がある。そのことを踏まえ、導入段階において学習者に英語の音韻認識を持たせ、リーディング能力の習得につながる可能性を研究している。

(2) 日本人の異文化間コミュニケーションおよびビジネスコミュニケーションにおいて、説得性のあるメッセージの作成と発信の方法について研究している。英語のロジック(paragraph writing)、MECEやWhy/Soを踏まえたドキュメントの作成を目指す。

(3) 日本人の幸福度について経済学、心理学、コミュニケーション学の観点から学際的に検討をしている

地域・産学連携の可能性

- 地域の小学校および中学校での英語授業のサポートが可能である(名取市、仙台市他での活動実績あり)。また、ビジネス組織でのフォーマル・コミュニケーションで必要とされるコミュニケーション(ビジネス文書の作成、アサーティブ・コミュニケーション他)についての研修を関係各所で実施することが可能である(実績あり)。
- 経営コミュニケーション学科幸福シリーズとして、同僚の経済学、心理学の教員と共に、関係各所にて講演を行うことが可能である(実績あり)。
- さらには、ヨガの実践を通した身体・個体内コミュニケーションとセルフ・アウェークニングヨガの研修が可能である(実践中)。

人文・社会

このテーマに関連する東北SDGs研究実践拠点

医工学・健康福祉研究拠点

このテーマに関連するプロジェクト研究所

Well-being 研究所

このテーマに関連するSDGs開発目標

ライフデザイン学部 経営デザイン学科　レトリックコミュニケーション、早期英語教育、対人コミュニケーション

宮曽根 美香 MIYASONE Mika

教授、博士（教育学）

執筆論文

日本人初級英語学習者の英語の音韻符号化に関する研究
― 音韻認識と書記素－音素変換規則の関係から ―

KeyWord　日本人の英語の音韻処理、ロジック、幸福、コミュニケーション